Peppolが輝かせる「主役」たち ～平塚市の企業、デジタルインボイスの「自分ごと」化～

2025年12月3日、デジタル庁は、平塚市役所産業振興課や平塚市の地元企業らとの間で、「デジタルインボイスに向けた実証実験」の実施について、意見交換を行いました。

平塚市は、2024年度に実施した「食品トレーサビリティの実証実験」の第二弾として、Triplo M's S.A. (スイス、菅原淳矢CEO）の協力と地元企業の皆様（平塚市漁業協同組合、山大商事株式会社）の参加を得て、地元の食品（トマ鯖カレー）の販売（企業間取引）に係る請求においてデジタルインボイスを活用する取り組みを開始することとしました。

実証を始めるにあたり、同課岡島課長代理より「トマ鯖カレーの販路拡大につなげていきたい。そのついでとして、デジタル化のメリットも感じてもらいたい。」とその目的等を説明しました。

「トマ鯖カレー」とは？

平塚市の農業・漁業と山大商事の高い食品加工技術を活かしつつ、規格外野菜や低・未利用魚の食材ロスという社会課題を解決し、地産地消を促進することを目的に開発された、平塚の「豊かさ」をぎゅっと詰め込んだカレーです。

そのうえで、意見交換に参加した地元企業からは「請求業務の効率化のみにとどまらず、トマ鯖カレーの認知度を高め、その先の社会課題の解決にもつなげていきたい」といった今般の実証で得られる成果に対する期待が示されました。